

令和7年度愛媛県政課題調査の結果（概要）

調査項目：「仕事と生活の調和の実現に関するアンケート」

1 調査目的

愛媛県こども計画（R7～R11年度）の目標指標「仕事と生活の調和の実現が図られていると感じる人の割合」に関して、実現状況や必要な取組み等を把握する。

2 対象者及び調査方法

県内に居住する18歳～79歳の男女400人を対象としたインターネット調査

3 調査期間

令和7年10月16日（木）～10月28日（火）

4 概要

(1) 仕事と生活の調和の実現状況や必要な取組みについて

○仕事と生活の調和が図られていると実感している人の割合

- ・全体：40.8%（前年度比+4.0%）で、昨年度から増加。
- ・男女別：男性37.9%、女性43.4%と、女性の方が高い。
- ・年齢別：50代が38.3%で最も低く、40代が47.3%で最も高い。
- ・地域別：東予32.9%、中予45.5%、南予43.5%と、中予がやや高い。

○仕事と生活の調和のために必要な施策（複数回答）

全体としては、「企業による仕事と生活の両立のための各種制度の導入促進」の割合が31.0%（400人中、124人が選択）で、最も高い。

○企業に行動変容を促すために必要な施策（複数回答）

全体としては、「経営者の意識啓発」の割合が47.3%（400人中、189人が選択）で、最も高い。

(2) 仕事や働き方について

○仕事を選択する際に重視すること等

- ・家族の状況として望ましい姿は、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と回答した人が59.5%（400人中、238人が選択）で最も多い。
- ・実際の家族の状況としても、「男女ともに仕事をし、家事等もお互いに協力して行っている」と回答した人が23.5%（400人中、94人が選択）で最も多いが、望ましい姿として同項目を回答した人に対して36ポイントの差がある。

○各分野の男女の地位の平等感

「家庭」「法律や制度のうえ」「学校教育の分野」においては、「平等になっている」が最も多いが、「職場」「地域社会」「社会通念や慣習やしきたりなど」「政治の分野」においては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答が最も多い。

○休日（1日当たり）の家事・育児時間

休日の平均的な家事・育児時間は、性別による差があり、男性は「1時間未満」と回答した人が最も多く（32.1%）、女性は「3～4時間未満」と回答した人が最も多い（24%）。

※男女別平均：男性1.80時間、女性3.82時間

○現在の就業形態

本人・配偶者ともに、勤め（常勤）が最も多い（本人42.5%、配偶者26.5%）。
（「配偶者はいない」33.8%を除く）

○労働時間

週の総労働時間（時間外労働含む）40～60時間未満が28.8%（400人中、115人選択）で最も多く、時間外労働については46.0%（400人中、184人選択）が1年前と比較して「変わらない」と回答。

○年次有給休暇

希望する日数が取得できているかについて、「どちらとも言えない」が20.3%（400人中、81人選択）であり、昨年度最多（24.5%）であった「希望する日数が取得できている」は19.8%（400人中、79人選択）に減少。（「仕事に就いていない・分からない」を除く。）

○妊娠・出産・子育てを契機とする仕事の形態の変化

全体では第一子出産時期、末子出産時期ともに、「変わらない（又は産休・育児休業中）」が最も多い（第一子出産時期28.3%、末子出産時期25.8%）（「（対象となる）子どもがいない」を除く。）が、第一子出産時期において「仕事を辞めた」人の割合が男性1%であるのに対し、女性は15.1%であり、性別による差が大きい。
※第一子出産時期の平均は1997年、末子出産時期の平均は2000年。

○育休等取得希望

- ・育休について、「取得したい」人の割合が40.3%（400人中、161人選択）で最多（「わからない」を除く。）。性別ごとの「取得したい」人の割合は男性が32.8%、女性が47.3%で性別による差がある。
- ・取得を希望する期間について、男性は「2週間～1か月未満」が17.2%で最も多く、女性は「24か月以上」が25.8%で最も多い。また、男性のうち「6か月～12か月未満」を希望する人の割合（14.1%：64人中9人）が昨年度（7.8%：77人中6人）と比較して6.3ポイント増加するなど、取得希望期間の長期化の傾向がある。
- ・取得を希望しない理由として、男性は、「人手が不足しているから（自分にしかできない業務がある、周りに迷惑がかかる）」（16.6%）、「収入が減るから」（14.6%）など仕事上の理由を回答した人が多く、女性は「妊娠・出産を機に、仕事を辞めるから」（18.8%）と回答した人が多い。

○子育て支援の充実を実感している人の割合

昨年度と比較して、「大いに感じる」「一応感じる」の割合が増加（26.3%→28.5%）している。

(3) えひめ結婚支援センター（ひめring）について

○えひめ結婚支援センター（ひめring）を知っている人の割合

17.3%（400人中、69人が選択）